

最新医療の現場



ジストニアに対するボツリヌス療法と脳深部刺激療法 (DBS)

徳島大学病院 神経内科 副科長・病棟医長 浅沼光太郎 あさぬま こうたろう

■問い合わせ 神経内科外来 Tel.088-633-7118

■難病ジストニア

ジストニアは、捻転性または反復性の異常な筋収縮により特定の姿勢や動作が障害される病態です。中枢神経、特に大脳基底核周辺の障害によると考えられていますが詳細な原因は不明の難病です。全身あるいは身体の一部に捻れ・硬直・痙攣・異常な姿勢といった症状が起きます。局所性ジストニアとしては痙性斜頸・眼瞼痙攣・手などに症状の出る職業性ジストニアなどがあります。全身性ジストニアは重症の場合には起立歩行も非常に困難となることがあります。いずれも幼児期から老年期まで幅広い世代に発症しえます。

■ボツリヌス治療と脳深部刺激療法 (DBS)

ジストニアには様々な薬物治療がありますが、薬物治療を尽くしても十分に奏効しない方に対しての治療選択として、[ボツリヌス治療]や[脳深部刺激療法]があります。当神経内科では、痙性斜頸、眼瞼痙攣などの主に局所性ジストニアに[ボツリヌス治療(筋肉注射療法)]を、難治の全身ジストニアや職業性ジストニアに対しては、入院精査し適応を検討した上で[脳深部刺激療法]を行っています。ボツリヌス治療とは、ボツリヌス菌を緊張した筋肉に直接注射すること

によって異常な筋収縮を治すものです。技術的に経験の必要な治療法のため全国でも実際に治療できる病院は限られていますが、当科は全国トップレベルの症例数を経験しております。また、[脳深部刺激療法(DBS)]とは、ペースメーカーに似た装置を手術により脳に埋め込み、脳の対象エリアに電気を送って刺激し、身体の動きをコントロールする脳の回路を機能させるものです。患者さん一人ひとりに合わせて電気刺激の調整ができます。脳の一部を熱で凝固するなどのその他の外科的治療と比べても脳細胞に回復不能なダメージは与えないというのも長所のひとつです。

■当院での治療実績

[脳深部刺激療法]が運動障害治療に導入され始めたのは1980年代からで、当院では5～6年ほど前よりこの方法を導入し、脳外科と協力してジストニア治療に取り組んでいます。全国でもまだまだ数少ないジストニア治療の先端を担い、全国から年間約100名の患者さんが来院され、脳深部刺激療法では40例近くの治療を行ってきました。当神経内科では、脳卒中、頭痛、アルツハイマーからこのような難病まで診療対象とし、神経全般に及ぶ治療に積極的に取

り組んでいます。

当院で治療により難治性の全身ジストニアを克服し、体の震えをなくし、歩ける足、字の書ける手を取り戻した青年が手記を発表していますので、ぜひ参考になさってください(難波教行／「たとえば、人は空を飛びたいと思うー難病ジストニア、奇跡の克服ー」講談社)。



▲脳深部刺激(DBS)装置を装着した患者のX線写真。胸にあるのは、体内埋め込み型パルス発信器(Solectra)。